

第1章 刈谷市の概要

1 位置・面積

刈谷市は、愛知県のほぼ中央に位置し、県庁所在地である名古屋市から 20 km 圏内にあり、豊田市・安城市・大府市・豊明市などの都市に囲まれ温暖な気候に恵まれています。

昭和 25 年の市制施行の後、昭和 30 年には富士松村と依佐美村の一部を合併し、ほぼ現在の市域を形成しました。市域は南北に長く弓状の形をなし、市内には境川、逢妻川、猿渡川が流れています。



市役所の位置

東 経 137 度 0 分 19 秒 9

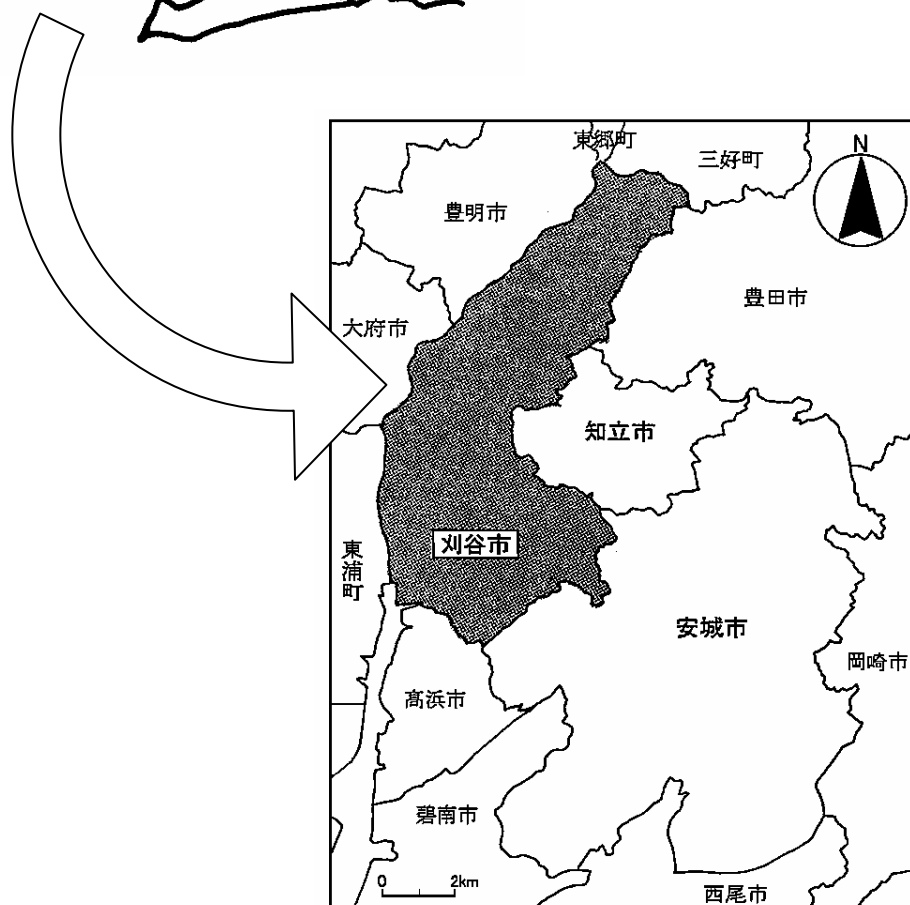
北 緯 34 度 59 分 8 秒 5

市の大きさ

東 西 5.80km

南 北 13.20km

面 積 50.45km²



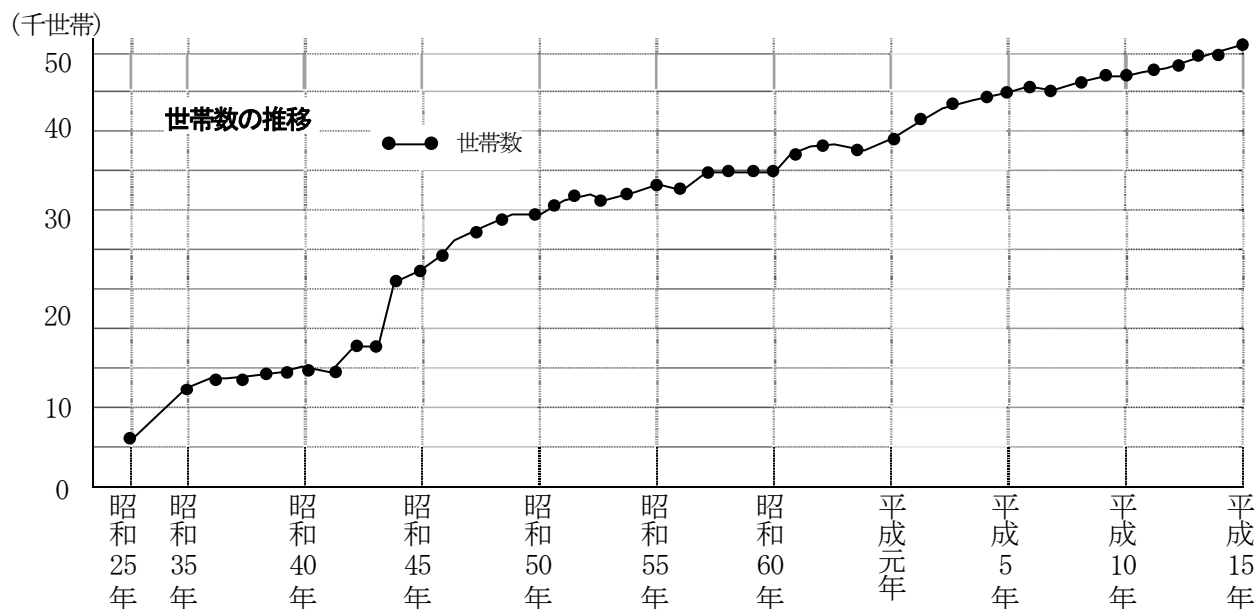
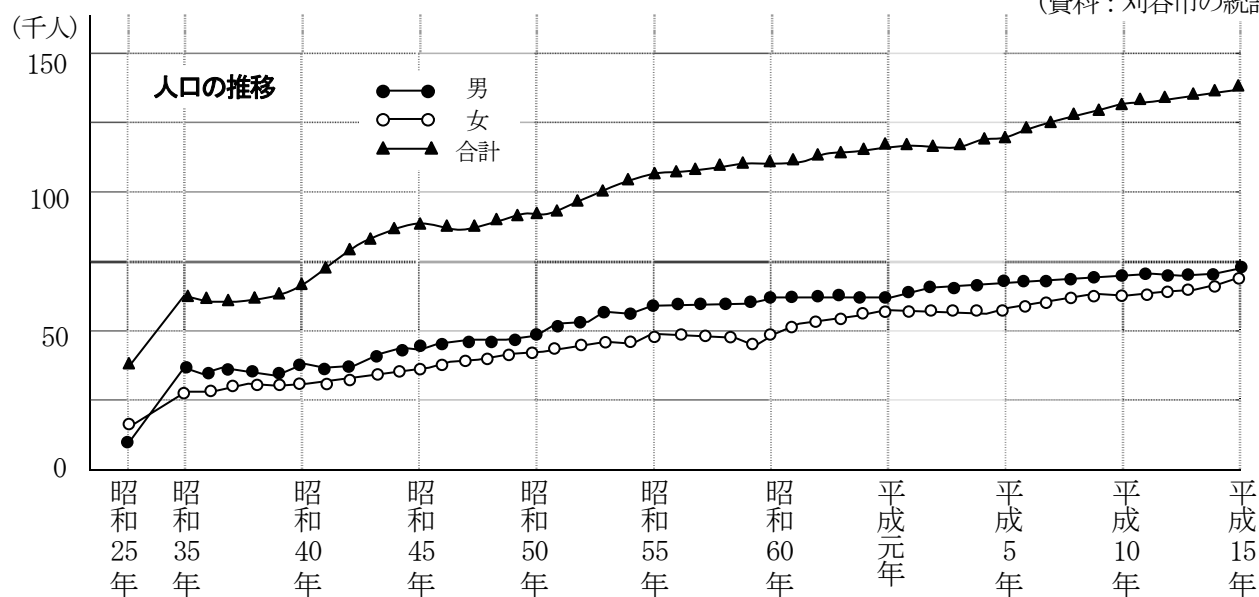
2 人 口

昭和 25 年の市制施行当時の人口 3 万 868 人が、同 30 年には富士松村と依佐美村の一部を合併し 5 万人余となりました。

そして昭和 40 年代にはいと企業の発展による社会増加が要因となり著しい増加を示しましたが、ここ数年は自然増による安定した人口増加が続いています。

調査年月日	人口 (男)	人口 (女)	合計	世帯数
平成8. 1. 1	66,277	59,765	126,042	45,344
9. 1. 1	66,752	60,487	127,230	46,016
10. 1. 1	67,487	61,111	128,598	46,900
11. 1. 1	68,468	61,885	130,353	48,058
12. 1. 1	68,914	62,426	131,340	48,664
13. 1. 1	69,206	63,007	132,213	49,221
14. 1. 1	69,965	64,059	134,024	50,239
15. 1. 1	70,987	64,976	135,963	51,606
16. 1. 1	71,694	65,762	137,456	52,829
17. 1. 1	72,840	66,758	139,598	54,198
18. 1. 1	73,996	67,344	141,340	55,726
19. 1. 1	74,915	67,747	142,662	57,322

(資料：刈谷市の統計)



3 産 業

地方商業都市としての性格が強かった刈谷市は、大正末期にトヨタ系企業が誘致され、近代産業都市の足がかりを得ました。その後、自動車産業を中心として順調に成長を続け、現在では、中部地方有数の工業都市に成長しています。

商業は、刈谷市の発展に比例し順調に成長してきましたが、農業は、都市化の波に押され農地の減少、農業従事者の減少が進み都市近郊型農業への脱皮が進んでいます。

製造品出荷額の推移

(単位：億円)

昭和55年	昭和60年	平成4年	平成7年	平成12年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
7,008	10,024	14,902	11,500	12,270	13,920	13,408	13,053	14,687

平成18年12月31日現在

産業分類別事業所数

(単位：件)

総数	農林業 漁業	鉱業	建設業	製造業	卸売業 小売業 飲食店	金融業 保険業	不動産業	運輸業 通信業	電気ガス 水道業	サービス業	公務※
5,791	6	0	445	871	2,423	95	206	142	6	1,583	14

※公務は、他に分類されないもの

平成13年10月1日現在

産業分類別従事者数

(単位：人)

総数	農林業 漁業	鉱業	建設業	製造業	卸売業 小売業 飲食店	金融業 保険業	不動産業	運輸業 通信業	電気ガス 水道業	サービス業	公務
90,023	34	0	4,580	44,792	18,729	1,310	495	2,864	246	15,871	1,111

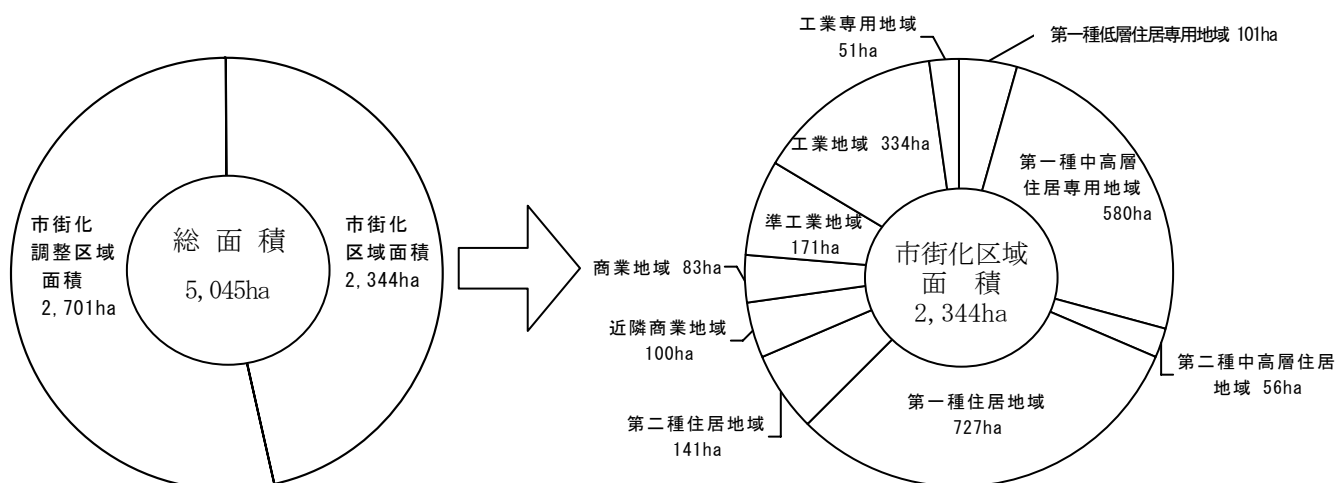
平成13年10月1日現在

資料：情報システム課

4 土地利用

刈谷市における市街化区域の面積は、2,344ha と市域の 46.5%を占めており、その内、住居系地域の割合が 68.6%です。一方、市域の 53.5%を占める市街化調整区域については、都市化の進展や幹線道路の整備等の開発要因により土地需要が高まっているため、農業生産基盤としての優良農地の確保や自然環境の保全を図る必要があります。

都市計画用途地域面積



平成19年4月1日現在

資料：都市計画課

